

H30/12/21Fri.

第2学期終業式式辞

校長 土居正明

平成30年度第2学期の終業式を迎えました。今年は12月4日に25℃を超える夏日を経験するなど、寒くなるのが遅かったので、いつもの年より師走だとか、もうすぐ正月だ、という心の準備ができていないように思います。皆さんはどうですか？ 知っての通り、来年の5月1日には新天皇の即位の礼が執り行われ、新しい元号が始まります。因みに来年のゴールデンウィークは10連休になるようですね。私のような昭和ど真ん中生まれの人間には、ついに2つ前の時代の人になるのかと結構感慨深いものがあります。12月は、ついいろいろ振り返ってみたくなる季節かもしれませんが、その空気に便乗して少しだけ振り返ってみたいと思います。

今年の大河ドラマは「西郷どん」でしたが、そこに描かれているとおりの多くの犠牲を礎にして「明治」という近代日本は歩み出しました。永い眠りから目覚めて西欧諸国に追いつくべく大急ぎで国づくりを進めます。明治後半には早くも日清・日露の戦争があり、犠牲者が日本人だけで12万人を超えています。

次に「大正」時代です。15年しかありませんでしたが、日本は第1次世界大戦に参加しています。また、関東大震災で10万人を超える犠牲者が出ました。

そして「昭和」という時代です。言わずとしれた第2次世界大戦がありました。軍人と民間人併せて230万人を超えるという日本史史上類を見ない犠牲者は悲劇としか言いようがありません。ここに明治以来の日本が脇目もふらず進んできた富国強兵の路線が大きな転機を迎えます。戦後は朝鮮戦争をきっかけとしてオイルショックまで、高度経済成長を合い言葉にして、近代日本の悲願であった経済大国への仲間入りを果たします。その陰では、モーレツ社員と呼ばれる全てを仕事に捧げるような働き手とその成長を支えていました。その結果、日本伝統の家族や地域の形が、大きく変わっていったといわれます。

「平成」時代に入って阪神大震災で約6500人、東日本大震災では1万8千人を超える犠牲者を出し、その他にも多くの自然災害に見舞われ、それまで

ボランティアという文化に縁が薄かった日本に、多くのボランティアによる助け合いが生まれ、「絆」という言葉が一つのキーワードになりました。また、平成は、明治以降初めて、日本が参加した戦争による犠牲者がいなかった時代になりそうで、そのことは胸をなで下ろすことです。

平成2年（1990年）にwww（ワールドワイドウェブ）という仕組みが登場しました。ウェブとは「蜘蛛の巣」を意味します。インターネットの幕開けといわれ、瞬く間に世界中のコンピュータがウェブにつながっていきました。平成10年（2010年）を過ぎて次々と登場したスマートフォンは、個人の電話が携帯できるコンピュータとなってウェブにつながり、インターネットに人間同志のコミュニケーションが乗っかって世界中を駆け巡る時代になりました。コミュニケーションに新たな分野が登場したわけですが、大変便利な道具ながら、コミュニケーションの手段としては、まだまだ成熟に至っていません。時に人を傷つけたり、トラブルに巻き込まれたり、取り返しのつかない事態を引き起こします。経済的成長が一定成熟し、今、目指すべきは人間の心の豊かさであると言われていています。

新しい年号が何というものになるのか楽しみですが、どんな時代にするのかは、ここにいる君たちが大きな役割を担うのだと思います。是非いい時代を創るために、君たちの成長を期待したいと思います。

3年生の諸君、バネのように大きく弾むために、今しっかりとたわんでエネルギーを溜めてください。勉強をし続けている人は、実は今からが実りの季節、点数の伸びる時期です。自分を信じてラストスパートを駆け抜けてください。

12年生、人のエネルギーは出し惜しみをしていると、次第に縮んでいきます。貴重な高校時代に全力を出し切ってほしいと思います。

そして皆さん、お正月は少し改まって、日頃言えない感謝を口にする時だと思います。あなたにとって感謝を伝えるべき人にちゃんと伝えてみては如何ですか。

皆さんで皆さんにとっていい冬休みにしてくれることを祈っています。

これで式辞に代えたいと思います。